

【アクションプラン2】

重点項目	生徒指導（なかよくする子・・徳　きれいなところの子・・心）
重点課題	自己有用感を育み、居場所を感じられる教育活動の実施
現　　状	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校に行きたくない」と登校を渋る子供や教室に入れないで別室登校する子供、学校にいきたくても登校することが難しい子供が増加している。 ・登校が難しくなった子供の前兆を教師が察知できなかつたり、欠席理由が分からなかつたりするため、具体的な手立てを協議する前に欠席が続く傾向にある。 ・現在登校していても、教室の居心地がよいと感じられず、悩みを抱えている子供がいると思われる。
具体目標 数値指数	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校に行ってよかった」や「明日も学校に行きたい」と思える子供の割合 80%以上
方　　策	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の生活アンケートで実態を把握し、担任が面談を行う。また、学校に行ってもよかったと思うと答えた到達度を調査し、その結果から課題を明らかにし、学級でどんな人間関係づくりの取組やサポートが必要か具体的な手立てを協議する。 ・学期の始めに学級活動の時間を使って、対人関係ゲーム等を実施する。その際、振り返りまで確実にを行う。 ・月曜日の朝や子供の表情が冴えない日に、朝活動の時間を使って、互いに関わることができるミニゲームを行う。 ・生活アンケートの結果や i-check で、気になる子供がいたときには、すぐに面談し、問題の早期発見、早期対応を心がける。また、生活アンケートや相談ポスト「おはなし箱」を通して、担任以外とも気軽に話ができるようにする。全校集会で、あさがおさいた運動の取組について紹介する。全学級で帰りの会に「あさがおさいたタイム」を設けて、友達のよいところやがんばりを認め合う。教師も子供のよいところを伝え、全体に広める。 ・異学年交流（学習・遊び）を通して、思いやりの心を育成する。 ・言語環境の改善に努める。 ・生徒指導の機能を生かした「分かる授業」「自己選択・自己決定ができる授業」「関わりのある授業」に努める。 ・学年だよりや懇談会等で、学校の取組を保護者に伝え、学校と家庭の両方で言語環境の改善に努めていく。